

【62号～83号】

かなぎ民俗だより



浜田市金城民俗資料館



浜田市金城歴史民俗資料館

西中国山地民具を守る会

〒697-0211 浜田市金城町波佐

TEL 090-4697-2818 FAX 0855-44-0143

御幣俵は研究のタイムカプセル



御幣俵

【御幣俵】について

昭和 30 年代までは、春の彼岸前後に、茅葺き農家の屋根普請が行われていた。田植組内のユイ講である。茅屋根は、4 分割して、1 角を 5 年おきに 20 年間で一巡するのである。5 年間毎に、原野の茅を刈取り屋根裏に保管して置くのである。屋根裏には、いろんな民俗資料がある。御幣やおみくじ、御札(ふだ)を昔から、粗末にしては、バチが当たるといふことで、茅菰で作った小さい俵に、年々詰め込んで、屋根裏に吊るしておく。これを吊るすことで、火災予防(火難に合わない)という信仰があった。

「御幣俵」が沢山有る家では、5~6 個(100~150 年間)も吊るしてあり、この俵の多い、少ないで、「この家は代が古い」と、屋根普請の時には、よく会話された。

この外に、俵の中に江戸末期の暦(こよみ)が多く(波佐・長田・小国地区共に)入っていた。例外として、特に、変わったものは、眼帯にお守りを縫い込んであるものもあり、眼病を神頼みした様子や、猪・鹿除けに養父大明神のお守り札もあった。また、神仏習合の名残であろうか、仏壇に吊るす掛軸を一緒に入れたものもある。寛政 12 年に「猪多く、養父郡大明神より勧請祈願するも効果なし」という記録があり、「御幣俵」に納まっていた、このお守り札が史実を裏づける資料である。

茅葺き屋根から、瓦屋根に移行したことで、家々の御幣俵は消滅した。幸いにも、50 年前に、御幣俵の蒐集保存したことで、これらの御幣俵を丹念に調査分類することで、過去の神信仰の範囲がつかめるであろう。100 年前のご洗米は、赤茶けている。お守りの中身は、杉の皮とか、桧のコケラというものもあった。また、古くは、戸籍をお寺で管轄していたと思われる、お寺あての死亡通知(飛脚用の手紙)も入っている。正に、「御幣俵」は研究素材のタイムカプセルである。(浜田市金城歴史民俗資料館蔵)

第 45 回文化講演会のお知らせ

現在、浜田市金城歴史民俗資料館で開催中の企画展『たたら製鉄と港・浜田』に関連する、「たたら製鉄」についての文化講演会を下記のとおり開催します。お気軽にお越し下さい。

記

演 題 『石見地方のたたら製鉄と流通』～鉄山の風水と金屋子信仰～
講 師 隅 田 正 三 (浜田市文化財審議会委員長)
日 時 11月17日(日) 午後1時～3時
会 場 浜田市金城町波佐 ときわ会館(波佐公民館 0855-44-0146)
主 催 西中国山地民具を守る会
入 場 料 無料(予約不要)

【問合せ先】 090-4697-2818



第 23 回常民文化研究講座『民具を語る・5』ご案内

開催日時 2019年10月7日(月) 13:30～16:00
開催会場 神奈川大学横浜キャンパス 9号館 911室(日本常民研究所)
発表者とタイトル

隅田正三(西中国山地民具を守る会長)

「実践民俗学50年を振り返って—民俗資料回想セラピーの取組み—」

北村春香(浜田市金城民俗資料館・非常勤学芸員)

「金城民俗資料館所蔵の紙布と紙漉き道具—他に類を見ない紙民具の量と質—」

主催 神奈川大学日本常民文化研究所

問合せ先

神奈川大学常民文化研究所

〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋 3-27-1

TEL 045-481-5661(内線 4358) FAX 045-413-4151

その他の情報

参加料無料・事前申し込み不要です。直接会場へお越しください。

市指定文化財新たに 5 件指定

古文書 金城たたら関係文書 35 点
考古資料 奥の原古墳群出土品 2 点
考古資料 重富廃寺跡出土品 33 点
考古資料 千年比丘 1 号墳出土品 一括
史跡 千年比丘 1 号墳
指定日 令和 2 年 3 月 19 日

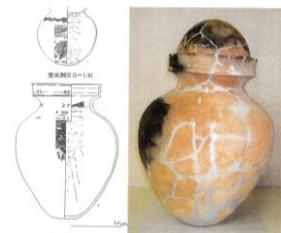
【金城たたら関係文書】

佐竹家文書、古和家文書の 6,500 点の古文書の中から、石見金城地域のたたら歴史を知る上で代表的な文書 11 点及び絵図 24 点。資料群の価値を代表する古文書として、年代的に最も古いもの、たたら操業の具体的なあり方をよく示すもの、たたら鉄穴のようすを視覚的に示す絵図類などを選び指定文化財としたものである。たたらを通じた周辺地域の交流や地域の歴史を知る基本資料としても貴重である。



【奥の原古墳群出土品】

古墳時代前期の奥の原古墳群(弥栄町)から出土した大型の壺棺である。壺棺本体は、高さ 52cm、最大幅 39.5cm と口縁を打ち欠いた、中型甕高さ 21.5cm、最大幅 22.5cm。山間部の古墳の始まりと小規模古墳の様相を知る上で重要である。



【重富廃寺跡出土品】

白鳳時代(7 世紀後半)から奈良時代(8 世紀)頃の古代寺院である重富廃寺跡(旭町)から出土した古代瓦である。丸瓦 7 点、平瓦 15 点、軒丸瓦(外区に鋸歯文)9 点、鷗尾の飾り 1 点である。石見地域の古代寺院で、石見地域の瓦生産技術のつながりを知る上で重要である。



【千年比丘 1 号墳出土品】

古墳時代前期の土器片と砥石一括である。土器片は、鼓型器台 17 点、甕類 6 点、不明 29 点が出土している。砥石は最大長 34.5cm、幅 20cm の大型品である。鼓型器台は、古墳時代前期前半(3 世紀末)である。これらは埋葬時の墓上祭祀に伴うもので山間部の古墳の始まりと小規模古墳の埋葬儀式の様相を知るうえで重要である。



【千年比丘 1 号墳】

金城町長田に立地する南北約 300m の丘陵北側に所在する。直径 15m、高さ 2m、3 遺体が埋葬された円墳であり、石見地方で最古の古墳である。山間部の古墳の始まりと小規模古墳の様相を知る上で重要である。



浜田市金城歴史民俗資料館では、市指定文化財指定記念速報展として開催します。
企画展『考古資料から学ぶ金城の歴史』 会期：令和 2 年 5 月 2 日～12 月 27 日

企画展「考古資料に学ぶ金城の歴史」

会期：6月6日(土)～12月27日(日)

新型コロナウイルス感染拡大防止の為5月31日まで、金城資料館は、休館としていましたが、6月1日より開館することいたしました。ご来館に当たっては、マスクを着用ください。

当初は、5月1日より企画展を計画しておりましたがコロナ対策で1カ月間、開催がずれこみました。6月6日(土)より企画展「考古資料に学ぶ金城の歴史」を開催します。全16遺跡から出土した考古資料は、縄文時代から各年まであり、通史で歴史学習が出来ます。

「波佐ネット」第150号でお知らせしている浜田市(2020.3.19付指定)「千年比丘1号墳」(4世紀前半最古の古墳)出土品の速報展も兼ねて開催します。

会 場 浜田市金城歴史民俗資料館(浜田市金城町波佐)
開館日 土・日曜日(月～金曜日に希望のお方はご予約下さい。) TEL 090-4697-2811

開館時間 午前9時～午後5時

入館料金 大人300円、中学生100円、小学生50円

※ 金城資料館2館は、共通券です。



カルチャーミュージアム(学べる博物館)

金城資料館2館を中心に半径1kmの範囲に所在する観光資源を丸ごと博物館として見学・学習が出来る史跡・笠松峠の畳石路。史跡・波佐一本松城。みんなで守る郷土の自然・常磐のカシ林。天然記念物・常磐の大杉・絵馬額16面。天然記念物・永昌寺の大杉。尼子経久公の墓。桂迫鉦跡。大潰鉄穴跡。史跡・千年比丘1号墳。能海寛顕彰碑・ハクモクレン。能海寛詠歌碑10基など。

【モデルコース】

- ・学べる博物館(カルチャーミュージアム)を訪ねるコース(ミニ講演(考古・歴史・民俗・冶金・自然)がセット)
- ・能海寛歌碑めぐりコースを訪ねるコース(歌碑10基を巡る観光コース)
- ・たたら製鉄資料と遺跡を訪ねる旅コース(鉄穴流し場、鉦所跡、鍛冶屋跡)
- ・畳石路と山岳城郭を訪ねる旅コース(笠松峠の畳石路と波佐一本松城を周遊)
- ・能海寛&島村抱月のふるさとを訪ねるコース(能海寛と島村抱月の生誕地・縁の地を巡回)

地域学習に取り組む波佐小学校

今年度、地域の総合学習に取り組んでいる波佐小学校5・6年生5名は、中川貴如教諭の下で、みんなで守る郷土の自然地域「常磐のカシ林」で学ぶ自然観察(春・秋2回)、「能海寛から学ぶ」偉人学習、「波佐一本松城」から学ぶ中世の歴史、「たたら製鉄」から学ぶ郷土の産業、「笠松峠の畳石路」から学ぶ江戸時代の街道(鉄と紙の道)を学習します。

9月29日には、偉人学習として、「能海寛の生涯と業績」を学びました。当日は、午後2時から波佐小学校でパワーポイントによる出前講座「能海寛の生涯」を聴講し、引き続き、金城歴史民俗資料館へ手掛けて、能海寛資料の展示見学を行い隅田館長から説明を受けました。終了後に各自5名から感想が発表されました。



能海寛展示室前での記念撮影

今福小学校は、お出かけ学習

10月5日、今福小学校6年生10名は社会科「ふるさとの歴史を知ろう」学習で、金城歴史民俗資料館へ出かけて学習を行いました。当日は、午前10時から「心に残る文化財子ども塾」島根県教育庁埋蔵文化財調査センター主催、講師は宮本正保氏が「ときわ会館」で開催されました。

終了後、10時30分から会場を歴史民俗資料館へ移動し、「チベット巡礼探検家能海寛」の展示資料と「たたら製鉄」の展示を見学しました。

引き続き、企画展「考古資料で学ぶ金城の歴史」を見学し、宮本氏から金城町内の遺跡と出土した石器、土器など展示物を時代毎に判り易く説明されました。この企画展の会期は、12月27日(日)までとなっています。



今福小学校6年生のお出かけ授業のスナップ

「地域まるごと博物館」体験ツアー

波佐小学校 5・6 年生は、「波佐の歴史を学ぶ」で 10 月 21 日に教室で波佐の歴史講座を受講後に金城歴史民俗資料館へ移動して、企画展「考古資料に学ぶ金城の歴史」と「たたら製鉄資料」の展示を見学し、ふるさとの歴史学習を行いました。

引き続き、「地域まるごと博物館」体験ツアーを 10 月 28 日にマイクロバスに乗り込み、6 箇所を見学し、波佐の魅力を体験しました。

コースは、①能海寛の生家である浄蓮寺(顕彰碑、歌碑、ハクモクシ、鐘楼門、総ケヤキ造りの本堂と阿吽の唐獅子、能海寛の墓)で能海の足跡を辿った。②千年比丘 1 号墳(4 世紀前半に造られた石造り最古の古墳、径 15m の円墳、3 つの埋葬施設があり、中央の墳に生時代の砥石が置かれていた)を現地見学し古墳の立地などを学んだ。

③亀遊山大歳神社(神祇官領、長田別府の頃、黒金が年貢注文。波佐一帯の本松城の鬼門除けの為に、現在地に遷宮された。)では、平安・鎌倉時代の学習をしました。

④常磐山八幡宮(文治元年、佐々木高綱創建、尼子経久再建立の神社。カシ林、大杉、絵馬、歌碑、手水鉢で銭占い。)では、神楽殿に掲示されている絵馬 16 面(宇治川の先陣争い、楠木正成親子桜井の別れ、六歌仙、鶴退治、折釘など)を見学しました。⑤普明山永昌寺(尼子経久創建の寺。大杉、径久の墓)を見学して、高台から小学校や地域全体を見下ろしました。⑥大潰鉄穴(江戸時代の鉄穴流し場跡)当時の鉄穴流し作業の形態が確認できる最適な場所である。

見学後、地域の再発見、魅力などについて全員が感想を述べた。11 月に行われる学習発表会で総合学習の発表が行われます。また「カベ新聞」にも取り組まれます。



金城歴史資料館にて



マイクロバスに乗り出発



能海寛顕彰碑にて



千年比丘 1 号墳の見学



常磐山八幡宮



普明山永昌寺から大佐山を望む



大潰鉄穴場跡

金城資料館見学

雲城小学校 3 年生 23 名(引率 2 名)は、2 月 9 日(火)金城民俗資料館を訪れ「昔の暮らしや道具について理解を深める」学習で民具を見学し、囲炉裏の間体験、嫁入り駕籠体験なども行ないました。

囲炉裏の間で、ヨコザ、セド、オキ、シモジリの 4 コーナーに 4 名をそれぞれ配置して、昔の暮らしや役割分担を学習しました。特に山仕事の道具類に関心がありつぎつぎと質問をして、メモ書きをしていました。



機織り機が真上から見学できます。

令和 3 年度から「スタンプラリー」を開始します

金城資料館は、「波佐まるごと博物館」を推進しています。令和 3 年度から資料館入館者へ付加価値のある「スタンプラリー」を提供します。半径 1Km の範囲に存在する 6 つの観光施設を巡回するスタンプラリーです。金城資料館へご来館いただいたお方に漏れなく、「スタンプラリー帳」(A5 判 4P カラー)を提供して、まるごとミュージアムを巡回して学んで、楽しんで、いただきます。

「波佐まるごと博物館」スタンプラリー帳

① 浜田市金城民俗資料館(国・県指定有形民俗文化財) ⇒ ② 浜田市金城歴史民俗資料館(市指定「能海寛歴史資料」・市指定「たたら関係古文書」) ⇒ ③ 浄蓮寺(能海寛顕彰碑、市指定天然記念物「ハクモクレン」) ⇒ ④ 龜遊山大藏神社(市指定史跡・波佐一本松城) ⇒ ⑤ 常磐山八幡宮(県指定天然記念物・常磐の大杉・みんなで守る郷土の自然「常磐のカシ林」) ⇒ ⑥ 普明山永昌寺(尼子経久公の墓)の 6 箇所を巡るスタンプラリーコースを設定しております。地図を確認して巡回ください。



【記念スタンプ】 ※「波佐まるごとミュージアム」を巡回するコース内の 6 箇所に設置しています。



生誕 150 年記念

企画展『島村抱月ようらんき揺籃期展』

ふるさとの偉人、文豪「島村抱月」の生誕150年を記念して企画展「島村抱月揺籃期展」を開催します。抱月は明治4年1月10日に金城町小国で父佐々山半三郎、母チセの長男として誕生した。幼名瀧太郎。20歳の時に島村文耕と養子縁組により島村姓となる。

抱月の祖父一平は、金城町波佐の長沢鉦に従事中に久佐庄屋の佐々田家から請われて天保11年に久佐村白甲鉦の支配人となり、業績を挙げ嘉永元年、津和野藩より佐々山姓が許された。父半三郎も白甲鉦で生まれた。文久3年には、金城町小国の田野原鉦へ移転操業中に半三郎は益田の大谷家のチセと結婚した。祖父一平は安堵したかのように永眠した。その後、相場に失敗して鉄山を退去して小国下土居へ移転した。明治3年に一平名を襲名した。佐々田家から許しが解け、高原鉦の打入れに明け暮れていた。抱月は下土居で誕生した。翌4年1月10日待望の長男瀧太郎が誕生した。5年2月の浜田地震により高原鉦が壊滅した。止む無く大前鉦で操業することとなり一家は大前鉦へと移転した。8年秋に再び小国村屋敷町に戻り負債を整理して、10年には下土居に戻った。14年5月、久佐村熊屋へ移転した。抱月は久佐小学校で2年間学び、青雲の志で浜田町へ出て薬局見習いで夜学の勉強をした。その後、浜田裁判所の給仕となり、島村文耕判事と運命的な出会いがあった。

今回の展示は、抱月の揺籃期を中心に抱月三代の係累を中心に生誕150年記念企画展として公開します。



揺籃期展の様様



「カチューシャの唄」の関係者

会 場： 浜田市金城歴史民俗資料館

浜田市金城町波佐イ 426-1

TEL 0855-44-0146

会 期： 6月5日(土) — 4年1月30日(日)

開館日： 土・日曜日(9:00-17:00)隣接の浜田市民俗資料館と共通券です。

団体等で、上記以外をご希望の場合は、前日までに電話予約(☎090-4697-2818)下さい。

入館料： 大人 300 円、中人 100 円、小人 60 円、団体割引は、25 名以上です。

只今、「波佐まるごと博物館」のスタンプラリー帳を提供中です。

南北朝時代の「黒韋威胴丸」残欠

浜田市金城歴史民俗資料館収蔵の「黒韋威胴丸」は、この程、甲冑研究家の豊田勝彦氏の写真での鑑定結果は、南北朝～室町期の貴重な鎧だと申され、後日、実物を見て鑑定したいと申されています。

下記の写真は草摺りと胴の残欠の一部分。かつては、常磐山八幡宮に奉納されていたものである。



僧形八幡神像

女神二体を従えた三体像につくられている。これは八幡神が応神天皇に擬されたことで、二女神も大帯比売・神功皇后、比売神・仲津姫とされたことによる。

この僧形八幡三神像は、その昔、常磐山八幡宮に奉納されていたものが、明治初年の廃仏毀釈のため、八幡宮外の民間人の手により保護されていたもので、40年前に移管収蔵されたものである。

戦国時代、尼子経久公が八幡宮を再建した際に奉納されたものであるかとも考えられる。鑑定出来る人を探しています。



僧形八幡神像と女神二体セット

企画展「明治時代の特産品」

—海を渡った黒金—

2022.6.4(土) ~ 12.25(日)

浜田市金城歴史民俗資料館

開館日 土・日曜日 開館時間 9:00~17:00

※ 土・日曜日以外の場合は、事前予約をお願いします。

☎ 090-4697-2818

明治30年の特産品として、10品目(銑鉄、半紙、繭、木炭、板、四八枕木、摺附木、菌、生柿及干柿、山芋)の生産高と収入額の記録がある。今では、この10品目は扱っていない。126年前に地域全体の産業として地域経済を潤していたことに改めて再考させられる。

フィラデルフィア万国博覧会は、1876(明治9)年5月10日から11月10日まで独立百周年を記念して開かれ、米国で初めての大規模な万国博覧会であった。この博覧会へ石見の銑鉄(黒金)が出品された。

たたら製鉄は、古来より重要産業として平安末期には黒金として、神祇官領の年貢注文で黒金が納められていた。戦乱の世に在っては黒金が時の為政者によって攻防が繰り広げられ、江戸時代になって地域全域で、たたら製鉄に関わるようになった。明治になって、洋鉄の普及で斜陽産業となった「たたら鉄(黒金)」が、第2回万国博覧会に出品されたことによって最後に陽の目をみたのである。

今回の企画展は、「海を渡った黒金」として、明治時代、石見地方のたたら製鉄の盛衰と九州方面へ主力販路を開いた記録を公開展示します。

半紙、繭、木炭、板、四八枕木は、別館の民俗資料館に展示している緒職用具(民具)と併用してご覧頂くと、より理解が深まります。



浜田市金城資料館アンケート調査から

(令和 4 年度上半期分)

【何で知りましたか】

・インターネット 25% ・口コミ 58% ・新聞・テレビ 17%

【 関心の分野は何ですか 】

・歴史 23% ・民俗 35% ・郷土史 30% ・偉人 12%

【 資料館で関心をもったものは 】

・民俗資料 32 パーセント ・たたら関係資料 47% ・能海寛資料 21%

【 感想・コメント欄 】

- ◆ 特に、たたら製鉄の労働・分業の体制、地域の農家との（馬）藩や県との関係、流通先との関係がとても良く分かりました。是非また訪問したいです。
- ◆ たたらに興味があったので、とても楽しかったです。また来たいと思いました。
- ◆ 資料が完全な形で残る事にまず驚きました。また、それらの史料を記録に残して、活用可能なかたちにしておられることに、更に驚きました。すばらしいです。今後、研究材料とさせて頂きたいです。石見人としてほこらしいです。
- ◆ 国指定重要民俗資料は、わかりやすく、ていねいな整理でよく揃っており、驚きました。たたら製鉄について、お話しを伺い、ますます興味がわいてきました。浜田市もそうですが、県レベルでツアーできるよう、広報してもらいたいです。ありがとうございました。
- ◆ めずらしい道具を近くで見られるのは貴重な体験でした。ていねいな説明ありがとうございました。
- ◆ 丁寧にご説明頂きありがとうございました。初めて知ることが多く大変勉強になりました。また来館したいと思います。
- ◆ 島根県の文化の豊かさを改めて感じました。失われゆくものを保存し、後世へ伝える活動は、今後さらに必要とされるものだろうと思います。私たちの世代に何ができるのか、もう一度よく考えたいと思いました。
- ◆ 貴重な資料ぞろいで驚きました。また来館させてください。有難うございました。
- ◆ 何もない町と、たかをくくって訪れましたが、大間違い。すばらしい歴史と偉人と史跡、巨樹巨木に出逢え、もっと知りたいと感じました。有難うございました。
- ◆ 大変丁寧に説明いただき興味深く拝見しました。ありがとうございました。
- ◆ こちらに出張で来ていますが、文化や歴史に興味があり大変素晴らしい民俗資料館です。
- ◆ 日本史の凝縮と思いました。探索させていただきます。
- ◆ 軽い気持ちで来ましたが、素晴らしい感動でいっぱい岐路に就きます。
- ◆ 民具とたたら資料の充実感激しました。
- ◆ 能海の熱意を感じ、ことばありません。
- ◆ 石見のたたら道具が大変判り易く展示されていて勉強になりました。
- ◆ 文化の伝承と保存が地域ぐるみで為されている事に感銘を受けました。モデルケースになり得ます。
- ◆ 能海寛師の求道心に覚醒の思い、能海寛研究に普及下さった方々、遺品の保存に尽力なさった方々に深謝申し上げます。

石見の黒金(たたら鉄)「北前船」で搬送

平安末期、永万元年(1165)に神祇官領「長田別府」大歳社「黒金」と年貢注文の記録がある。鎌倉時代には、「長田保」として、「承久の乱」以降に北条泰時から近江の坂上明定・坂上昭胤が親子2代に亘って拝領していた。戦国時代の「波佐庄」は、吉川広家の御料所として「七拾貫 波佐」とあり、古代からの鉄山地域として黒金を巡る幾多の戦乱を潜り抜けて来た。

江戸時代に入ると、たたら製鉄は、民営化され、農民も馬を飼育し、たたら製鉄の搬送で参画して、駄賃稼ぎで、地域全体の経済効果が上がった。弘化・嘉永頃は、浜田浦から北前船で全国へ長割鉄が輸出され活況を呈した。販売取引先は、10業者であった。

銑鉄買付業者名

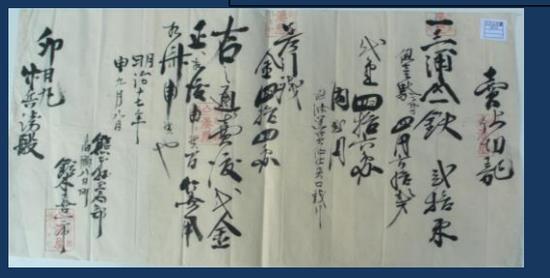
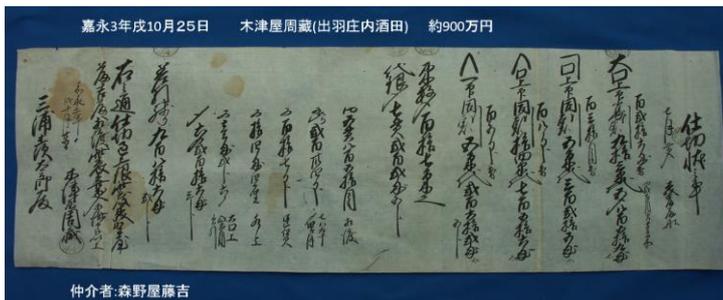
【出羽酒田】紀伊国屋弥左衛門、木津屋周藏。【越中高田】清五郎。
【筑前博多】西崎常四郎、石州屋藤三郎。【唐津】讃波屋坂本九造。
【柳川小保】石見屋虎次。【肥後小島】石見屋平右衛門。【肥後高瀬】
湊屋喜一郎、志波屋嘉平、岩岐屋嘉平。【長門赤間関】佐野屋熊治郎。
【三田尻】布代屋三四郎、宮津屋保左衛門、岩見屋平三。
【大坂堺】隅廣屋。【兵庫】日向屋嘉六、取上屋彦左衛門。

海を渡った『黒金』

明治9年5月10日から11月10日まで独立百周年を記念して開かれた第2回フィラデルフィア万博博覧会へ浜田県の要請で「黒金」が出品された。出品者は、佐竹要助で那賀郡内の砂鉄開業製鉄結社の世話掛をしていた。※現在企画展を開催中！

明治時代は、九州へ「黒金」を販売

明治になると、洋鉄の普及で、たたら製鉄が疲弊してきた。この為、佐竹氏は、九州方面へ銑鉄を積極的に販売した。販売先は、福岡、佐賀、熊本の3県の8業者であった。



江戸末期から明治時代までの売仕切証文

変わってきた人々の暮らし

2月21日(火)に雲城小学校3年生19名が、金城民俗資料館を訪れ校外学習を行ないました。9時50分から、波佐まちづくりセンターで、パワーポイントによる「変わってきた人々の暮らし」の映像視聴による学習後、10時30分から会場を金城民俗資料館に移し、民具を見学しました。各自が興味ある資料をタブレットで撮影し、熱心に資料確認に取り組みました。



「黒韋威胴丸」残欠を現地確認

東京都在住、甲冑の研究者・豊田勝彦氏が、予てより注目されていた甲冑の現地確認を2月21日(火)午後から、保管先の浜田市金城歴史民俗資料館を訪問され「黒韋威胴丸」の残欠と対面されました。

豊田氏曰く「草摺と胴体の一部の残欠。右脇で開閉する胴丸」であることが判明した。これだけの残欠で全体の大きさも推定できるとのこと。この甲冑は、完成後に改変の跡が全く無く、資料として大変貴重な残欠との評価を受けました。時代は南北朝時代後期の製作で、常磐山八幡宮へ奉納した人物は、国人に匹敵する人物であるものと話された。今後、古文書などで追跡調査をする必要があります。



写真左から豊田勝彦氏。中は甲冑の丈が判る資料。右は黒韋威胴丸の残欠(南北朝時代)。

企画展 『藍染の型紙展』 パートⅡ ～江戸時代の紺屋の型紙 500点～

波佐地方では、江戸時代（文政～天保）から代々紺屋職を営み村民の藍染を一手に行っていた。展示する型紙は、伊勢の白子型紙、京型紙、地元制作の型紙で、天保年間頃のものが見受けられます。型紙への印影から仕入問屋など流通が判ります。

型紙は、美濃和紙を用いて、柿渋で3～4枚を交互に重ね貼りした型紙紙に、錐彫、突彫、道具彫、縞彫の4通りの手法で7～8枚を重ねて、彫刻されたものです。図柄によっては、1枚を仕上げるのに1か月を費やすこともあるそうです。

この型紙は、半永久的に使用・保存が可能だと言います。今回の展示は、500点の中から前回の展示公開以外の代表的な図柄70点を展示します。

会 期：令和5年6月3日（土）～12月24日（日）

会 場：浜田市金城歴史民俗資料館

開館日：土・日曜日 Am9:00 — Pm5:00

入館料：大人 300 円、中学生 100 円、小学生 60 円

2館共通券、団体割引 25名以上。

※団体などの平日の入館希望の場合は、前日までに電話予約をお願いします。

浜田市金城資料館指定管理者 ☎ 090-4697-2818（西中国山地民具を守る会）



紺屋の型紙の一部

金城民俗資料館 50周年記念

金城民俗資料館は、昭和48年11月3日にオープンして、今年で開館50周年を迎えました。55年前に、波佐地区の全家庭から民俗資料として、3,500点の民具を提供いただきました。収集した民具は、学術的に整理して、文化財の指定を受け金城資料館が建築されました。

「実践民俗学」、「民俗資料回想セラピー」、「ふるさと学習」を推進している資料館です。特に、囲炉裏の間の立体展示は、往時を偲ぶ「オモテ住い」のものです。紙漉き用具は、一枚漉き用の漉篋は馬の尻毛で編んだ希少な用具で、江戸時代の紙漉き用具が完全に揃っている唯一の資料館です。紙漉き作業写真と併用してご覧ください。また、民具の改良・進化など比較研究の出来る資料や民具を用いた労働慣行の写真資料も提供しています。**波佐の諸職用具 755点**(鉄穴流し用具 15点、鋸製鉄用具 31点、鍛冶屋用具 126点、炭焼き用具 48点、屋根葺き用具 26点、紺屋関係用具 494点、養蚕用具 15点)は、2館に分けて展示中。

金城歴史民俗資料館は、200年前に建築された「たたら蔵」が昭和53年に金城歴史民俗資料館に改修され、開館45周年を迎えました。鉄穴流し用具、たたら製鉄用具、鍛冶屋用具、たたら文書(市指定)など6,600点の資料で石見のたたら製鉄を知る上で唯一の資料館です。

チベット巡礼探検家・能海寛の歴史資料(市指定)3,000点。文豪島村抱月資料50点。埋蔵文化財3,000点を収蔵展示しています。企画展『藍染の型紙展』Part 2を6月3日(土)より開催します。

国指定重要有形民俗文化財「波佐の山村生産用具」758点(S46.12.15)

(指定理由) 旧波佐村は、中国山地の分水嶺に近い高地にあり、殆どが山地で農地は少なく、江戸時代には津和野藩の紙年貢に供するため紙を漉いていました。民具収集は住民の自発的意志によって巨細にわたり取りまとめたもので質量ともによく備わり、この地域の生産生活の特色を示すものとして重要。

農具 244点、山樵用具 110点、紙漉き用具 110点、紡織用具 152点、運搬具 64点、仕事着 78点。

島根県指定有形民俗文化財「波佐の山村生活用具」221点(S47.7.28)

(指定理由) 石見部山間部における伝統的食生活を系統的に知ることができる資料です。

食品製造貯蔵用具 41点、食物調理調整用具 76点、飲食用具 104点。



企画展「藍染の型紙展」Part.2

—江戸時代の紺屋の型紙—

会期：6月3日(土)～12月24日(日) 金城歴史民俗資料館

開館日は、土・日曜日です。団体などで平日来館希望の方は、前日までに、ご予約下さい。☎090-4697-2818まで。



好評につき、企画展「藍染の型紙展」パートIIを開催、型紙70点を公開中です。



黒韋威胴丸の詳細調査

7月12日(水)に甲冑研究家の豊田勝彦氏が2度目の金城資料館へ来館され詳細調査が行われました。残欠の小札など鎧の各部所に配列され、全体の姿が判明しました。

この日は、豊田氏に同伴して、九博関係の漆芸修復の大西智洋氏も鎧の見学に来館。浜田市教委からも3名の見学、鎧の来歴調査では、佐田雅宏氏が亀谷家の系図を持参され、調査は1日かかりで行われました。

鎧は室町時代の国人クラスのもので残欠の量は、全体の45%で、右脇開きの胴丸で、厳島神社の国宝と安芸太田町大歳神社の県指定に続く例目の黒韋威胴丸である。

翌13日には、豊田氏と安芸太田町の大歳神社(梶原武彦神主)の案内で県指定の鎧と刀剣の見学。豊田氏から詳細の解説を受けた。

豊田氏は、数年後に黒韋威胴丸を3体並べ企画展を開催するのが夢であると述べられた。



右脇開き



豊田勝彦氏



漆仕様の部分を観察



浜田市教委へ重要度を解説する豊田氏



配置を終えた黒韋威胴丸・右脇から背中部分



系図で来歴を調査

金城資料館開館 50 周年記念講演会を開催

昭和 48 年 11 月 3 日に開館した金城民俗資料館が 50 周年を迎えたことから、11 月 19 日(日)に、ときわ会館において、記念講演会が開催されました。浜田市教育委員会山本克也文化スポーツ課長の祝辞、大屋俊弘県議、邑南町の中山光夫氏から祝詞をいただきました。波佐出身の有志から 50 周年お祝いの花束も頂戴しました。

演題は、「民俗資料保護活動 50 年」―波佐の諸職用具に学ぶ昔の暮らし―と題して、金城資料館の隅田館長がパワーポイントで 50 年間にわたる西中国山地民具を守る会(16 名)の文化財の保護啓蒙活動を通して、金城資料館の指定管理・運営を行い後世へ伝えていく活動と諸職用具をとおして明治期の社会の変動と諸職の変化を講演されました。

講演会場には、パネル展示や先に刊行された『学べる博物館』、『50 周年の歩み』などが参加者に贈呈されました。



記念講演会の模様



山本克也文化スポーツ課長祝辞



祝 50 周年の花束

たたら製鉄遺跡見学会

11 月 21 日(火)午後から萩市の福栄文化遺産活用保存会(小野興太郎会長)一行 7 名の皆さんが波佐地内のたたら関係遺跡を巡る見学ツアーを行いました。

見学コースは浜田市金城歴史民俗資料館(たたら製鉄用具)⇒金城民俗資料館⇒大潰鉄穴遺跡⇒栃下鉦遺跡⇒桂迫鉦遺跡⇒石見地域研究センター(たたら関係映像視聴)のコース順に現地見学会が行われました。

桂迫鉦では、吹き小屋や勘場が風水の見立てにより設置されていること。積雪地帯であることから丸打ち型吹き小屋であったこと。小舟の陥没箇所と風水絵図面を照合して、小舟の位置や小鉄小屋、小鉄洗い場、銑池の位置が判る遺跡であることなどを現地で確認しました。



金城歴史民俗資料館をバックに



石見地域研究センターにて

「波佐っ子恩返し隊」の奉仕活動

波佐小学校 6 年生の 2 名(榎隆太郎さん・竹田絢音さん)を中心に「波佐っ子恩返し隊」が、過去 6 年間に地域で「ふるさと学習」活動を行った各公共施設へ出向き清掃等の奉仕活動をするというものです。

1 月 18 日(木)、午前 9 時 30 分から 6 名の「恩返し隊」が浜田市金城歴史民俗資料館へ出向き清掃奉仕活動(展示台・ガラスケース・床面の清掃など)を行いました。清掃は、たたら製鉄展示室を中心に 1 時間 30 分行き、終了後に 30 分間、隅田館長が、たたら製鉄を中心とした「ふるさと学習」の講話を行いました。歴史館は、今年で開館 46 年を迎え見違えるように綺麗に清掃頂き、新しい年を迎えて気持ちよく来館者を迎える事が出来ます。



左側から竹田さんと榎さん



「波佐っ子恩返し隊」の皆さん

「かわってきた人々の暮らし」学習

雲城小学校 3 年生 34 名が 1 月 26 日(金)、浜田市金城民俗資料館へ校外学習に出かけました。「変わってきた人々の暮らし」をテーマに民俗資料の見学をしました。

児童代表挨拶の後、隅田館長から館内の民具の説明を行い、自由見学では各自持参のタブレットで民具の写真を撮影し、質問を受けながら学習を行いました。個人学習の後、囲炉裏の間で昔の生活の様子などを話し囲炉裏端の体験もしていただきました。

最後に、感想発表が行われ、児童代表の挨拶で校外学習が終わりました。



金城民俗資料館のいろいろの間で体験



金城資料館展示室にて

文化財防火デー／消防総合訓練

昭和 24 年 1 月 26 日に法隆寺の金堂の壁画が焼失したことで、この火災を教訓に昭和 25 年に文化財保護法が制定され、30 年には、「文化財を火災から守ろう」とのスローガンから 1 月 26 日を文化財防火デーと制定されました。金城資料館も半世紀に亙り消防総合訓練を実施してきました。

今年も、1 月 27 日(土)、東部消防署金城出張所(天津氏・石田氏)の指導の下で、金城自衛消防隊と波佐スポーツ少年団、波佐まちづくりセンターと共催で消防総合訓練と AED(自動体外式除細動器)等による救命救急処置や蘇生訓練を実施しました。



消防訓練に参加の皆さん



AED を用いた訓練の様様



※ 「スタンプラリー帳」は、金城民俗資料館で無料交付していますので、ご活用下さい。

令和 6 年度企画展

「明治期の日本坑法に見るたたら製鉄」

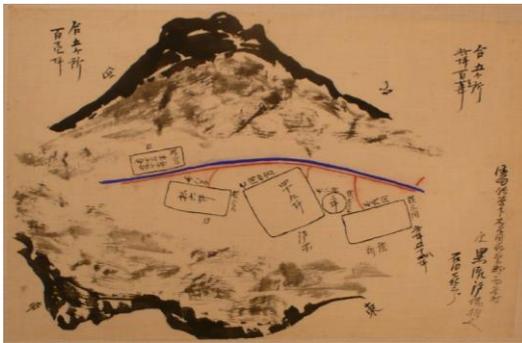
— 浜田県時代のたたら製鉄 —

会期：令和 6 年 6 月 1 日(土) — 12 月 28 日(土)

会場：浜田市金城歴史民俗資料館

【内容】 古来より盛んであった「たたら製鉄法」は、明治維新後、大きく変容した。反射炉による洋鉄の生産によって、たたら産業が大きく衰退する中で、明治 6 年 7 月、「日本坑法」が布告され、浜田県(M4.6—9.11)時代に、借区開坑 9 条により、旧那賀郡内の、鉄山関係者の砂鉄採集、鉦経営、鍛冶屋経営者が、借区世話掛佐竹要助が取りまとめの仲介事務処理をしたことで、浜田県との往復公用文書によって、旧那賀郡内 12 箇所の申請書、絵図面などの写により、石見地方の終末期のたたら製鉄の稼働状況の全容が把握される。

また、「銑鉄不景気諸鉄山議定書」8 年 7 月によると石見地方のたたら製鉄関係の経営者が挙って、議定書に参加している。その数、鉦経営者 20 名。鍛冶屋経営者 2 名。が終末期の経営形態、労賃などが把握され、当時の経営難が理解できると共に、この企画展を通して、石見地方のたたら経営の終末期を伺い知ることが出来ます。



黒瀬鉦絵図



飯ノ山鉄穴絵図

[明治 6 年] 七月二十日 第二百五十九号

今般鉦山其他諸坑業の規則別冊の通改定候に付ては凡坑物に關係の事件は工部省に於て総管せしめ候条自今金属其外諸坑物營業の儀都て同省へ可申立候、此旨布告候事

日本坑法

第三章 借区開坑

第九 開坑する者は先つ坑区を得へし、坑区の廣狹は其適実なる起業の目途に応じて之を得せしむへし有鉦質坑を開く者は必ず製鉦の業を兼ねへし、凡借区開坑は鉦山寮に願出へし、此願書に其得んと欲する坑区の測量図を添て出すへし試堀を経て借区願出る者は其坑区中別に地主有りと雖とも之を拒むを得ず、尤其處分は借区券を得るの後廿二款の如くなるへし

浜田市金城資料館アンケート調査から

(令和 5 年度 下期分)

【何で知ったか】

・市報はまだ 6.7% ・インターネット 13.3% ・口コミ 40.0% ・新聞・テレビ・雑誌 40.0%

【 関心の分野 】

・歴史 34.2% ・民俗 34.2% ・郷土史 19.5% ・偉人 17.1%

【 資料館で関心をもったもの 】

・民俗資料 32.5% ・たたら関係資料 30.0% ・能海寛資料 20.0% ・企画展 17.5%

【来館者】

・男性 52.2% ・女性 47.8% ・平均年齢 55.4 歳

【 感想・コメント欄 】

- ◆ 自分自身に繋がっている文化や智慧がどのように現代息づいているのか理解できた。未来へつながることも可能だと知った。
- ◆ 資料と共に写真が展示されており、変わり易かったです。沢山の資料群に圧倒されました。
- ◆ 大変懐かしいものを見せていただきありがとうございます。
- ◆ 資料の量、質共に素晴らしかったです。
- ◆ 初めて来館しました。能海師のことについてもこのような方が存在しておられたことを知り、その学績の偉大さと、保存と周知に力をつくされていることに感銘致しました。民具を見るのが好きで知らない道具を見せていただき、また新たな知識を得たことをとてもうれしく良い経験となりました。
- ◆ 詳しく説明していただいて、自分だけで見学するよりも理解が深まりました。展示物の種類、数、写真など、どれをとっても素晴らしい資料館です。
- ◆ 型紙展に興味を持ってきましたが、其の他の展示もとても判り易くとても良かったです。
- ◆ 案内していただき、細かいことがよくわかりました。
- ◆ 自分の家から出した民具もあるということを教えて戴き、これらがしっかり管理されているので驚きました。
- ◆ 始めてきましたが、沢山資料があって、びっくりしました。もっと沢山の人も知ってもらいたい。残していただきたいと思います。

企画展「明治期の日本坑法に見るたたら製鉄」

— 浜田県時代のたたら製鉄 —

会期：令和 6 年 6 月 1 日(土) — 12 月 28 日(土)

会場：浜田市金城歴史民俗資料館